

岐阜女子大学におけるデジタル文化創造研究は、 「木田宏オーラルヒストリー」デジタルアーカイブからはじまる

谷 里佐 (岐阜女子大学)

1. デジタル文化創造研究の基礎として位置付けられる木田宏先生のオーラルヒストリー

拙稿「新しい「デジタル文化創造」に向けて」(アーカイブ DataReport NO.201)において、デジタル化(技術)によって、新しい文化を創り出す(創造)一例として、文化の伝承に、紙(印刷メディア)のみでなく、従来、文字起こし(印刷物)が行われていた口述資料のデジタル化などに、デジタルメディアが使われはじめていることを取り上げた。

オーラルヒストリー(口述歴史)のデジタルアーカイブは、まさに、それにあてはまるものである。口述資料として、筆記による記録が主であったオーラルヒストリーは、その貴重性、希少性への理解は得られていたものの、筆記による記録の正確性や信ぴょう性などへの疑問から、資料的価値としての評価は定まっていなかった。

しかし、デジタルアーカイブにより、話者の身振り手振りやその関連情報資源のデジタル化と保存(保管)、利活用が可能になり、新しい文化の伝承、デジタル文化創造研究へと発展し得るものとなった。岐阜女子大学では「木田宏オーラルヒストリー」デジタルアーカイブがその端緒といえる。

「木田宏オーラルヒストリー」の記録は、岐阜大学にて、1980年代にはじまった。

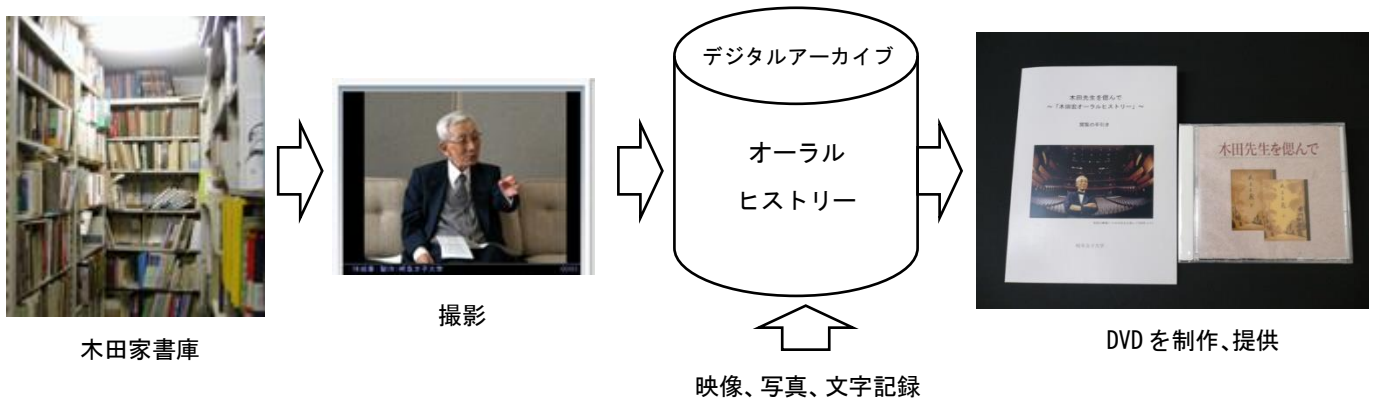
「木田宏オーラルヒストリー」の記録、デジタルアーカイブ化を中心になって進められ、指導された後藤忠彦先生(現岐阜女子大学顧問)によると、当時は、コンピュータの歴史の流れの初期に位置付けられ、英数字の記録処理から始まり、1980年頃には日本語(漢字)の処理が可能になり、映像、音声、文字、数字等のマルチメディアとしてコンピュータ処理の研究がはじまったが、実用化はされていなかったという。

そのような時期に、後藤先生は、国立教育研究所の当時所長であった木田宏先生から著作物のデータベース化の相談を受けられた。その際、後藤先生が、木田先生の著作物リストの中にあつた『新教育と教科書制度』の重要性を見出され、木田先生に、戦後の国定教科書から検定教科書への切り換えや教育委員会制度についての話(オーラルヒストリー)をしてくださるようお願いされたことが、「木田宏オーラルヒストリー」記録のきっかけであった。

この、岐阜大学での「木田宏オーラルヒストリー」を含む、木田先生の著作物リストなどのデータベース開発実践、研究が、その後、岐阜女子大学での「木田宏オーラルヒストリー」デジタルアーカイブ、デジタル文化創造研究の基礎となったといえる。

とくに、後藤先生が、最初に木田先生にオーラルヒストリーの依頼をされたとき、将来、映像、音声、文字、数字等のマルチメディアとしての記録管理が可能になることを予測され、オーラルヒストリーだけでなく、その関連資料(書籍、資料、写真等)の整理をお願いされたことは、岐阜女子大学での「木田宏

オーラルヒストリー」デジタルアーカイブが、話の映像等のみの記録ではなく、関連資料の記録もあわせた総合的なデジタルアーカイブ開発へと発展したことに繋がることであり、特筆すべきことといえる。



岐阜女子大学での「木田宏オーラルヒストリー」デジタルアーカイブは、木田家書庫に所蔵されていた木田先生の所蔵資料と、2004年6月27日・28日に、岐阜女子大学文化情報研究センターにて撮影記録したオーラルヒストリーを、映像、文字、関連情報を組み合わせてまとめており、文部科学省大臣官房ほかの依頼を受け、DVDの制作と提供を行った。

2. 「木田宏オーラルヒストリー」からはじまる岐阜女子大学の各種オーラルヒストリーのデジタルアーカイブ開発研究

岐阜女子大学では、「木田宏オーラルヒストリー」デジタルアーカイブをはじめ、地域の文化遺産、文化財、活動とそれに携わる人々のオーラルヒストリーを中心に、岐阜・沖縄で、デジタルアーカイブの開発研究を行っている。

たとえば、岐阜では、世界遺産白川郷和田家の当主（2000年当時）和田正美氏のオーラルヒストリーとして、和田氏の話の映像資料と関連資料のデジタルアーカイブを行った。



和田正美氏の話（オーラルヒストリー）の様子 と 話に登場する関連資料

和田家オーラルヒストリーのデジタルアーカイブは、その後、次代の当主和田正人氏のオーラルヒストリーと関連資料のデジタルアーカイブへと継続的に取り組み、学校教育等で活用できる伝統文化教材としてまとめている。その他、クリエイティブ・コモンズ・ライセンス CC-BY4.0 で提供している「和田家おうらい」デジタルアーカイブ（岐阜女子大学デジタルアーカイブ研究所）などもある。

沖縄では、沖縄の芸能文化や戦中戦後の体験についてのオーラルヒストリーと関連資料のデジタルアーカイブの開発が進められている。

「木田宏オーラルヒストリー」のデジタルアーカイブからはじまるデジタル文化創造の研究は、今後、DX、メタバース等での新しい技術とそのデジタルアーカイブの利活用の研究へと発展するものと思う。